



第87回

全国民生委員児童委員大会

（沖縄大会）開催される

9月27日、本県で初めてとなる全国民生委員児童委員大会が沖縄コンベンションセンター（宜野湾市）で開催されました。（主催：全国民生委員児童委員連合会、沖縄県民生委員児童委員協議会、他10団体）

本大会は、今回で87回目を数え、民生委員制度創設100周年を迎えた昨年からは、新たな歩みを重ねる年であるとともに、民生委員法施行70年の節目となる年での開催となりました。本大会には、全国各地の民生委員・児童委員や、民生委員児童委員協議会（以下、「民児協」という）関係者、総勢約3400名が参加しました。

沖縄のうとういむち（おもてなし）

沖縄県内の参加者約120名は、早々と会場に入



▲会場入口でお出迎えをしている県内参加者



▲会場では歓迎の横断幕が掲げられた

り、会場入口や2階席で歓迎の横断幕を広げたほか、本大会の記念品として参加者全員に配布された紅型の小風呂敷を高々と掲げて、県外の民生委員・児童委員の皆様を出迎えました。



▲「琉球芸能団うりずん」の舞踊「四つ竹」

**■オープニング
アトラクション**
式典前のオープニングアトラクションでは、沖縄県立芸術大学卒業生を中心として構成された「琉球芸能団うりずん」が出演。記念品の小風呂敷と同様の紅型の衣装で、琉球舞踊を披露し、大会に華を添えました。

式典・表彰、特別講義、大会宣言等

式典は、県民児協・藏當博文会長の開会あいさつで始まりました。「全国各地よりご参加の皆様に対して歓迎の意を表し、参加者全員にとって実り多く、互いの交流が深まることを祈念します」とあいさつしました。



▲開会あいさつ述べる藏當博文氏（沖縄県民児協会長）

■全国民生委員児童委員連合会会長表彰
主催者あいさつの後、全国民生委員児童委員連合会の得能金市会長から優良民児協（受賞総数78民児協：県内から1民児協）、永年勤続単位民児協会長（受賞者数24名：県内から1名）、

永年勤続単位民児協役員（受賞者数24名：県内から1名）、永年勤続民生委員・児童委員（受賞者数17355名：県内から143名）への表彰が行われました。



▲優良民生委員児童委員協議会表彰の表彰状を授与する全民児連会長の得能金市氏（左）と受領する宮良吉雄氏（右：那覇市首里第2民児協会長）



▲永年勤続民生委員・児童委員表彰の表彰状を授与する全民児連会長の得能金市氏（左）と受領する比嘉敬吾氏（右：名護市第2民児協会長）



主 委員活動のなかで、住民
による共生社会づくり

■大会宣言

これからの民生委員・児



▲特別講義を行った佐久本嗣男氏(右)と演武を披露した喜友名諒選手(左)

別講義
久本嗣男氏(沖縄県体育協会理事長兼副会長、沖縄劉衛流空手古武道龍鳳会会長)をお招きし、「世界制覇への道」頂点へのこだわり」と題して講演をいただきました。講演の中では、佐久本氏の経験から教訓となった出来事の数々が紹介されたほか、現在、多くの世界大会で優勝に輝いている喜友名諒選手の演武や今後の決意表明等がありました。



▲「創作芸団レキオス」の獅子舞と参加者

や、近年相次ぐ災害で被災した方々への支援の継続に取り組むこと等が示された大会宣言(案)が採択されました。(下段参照)

■エンディング

アトラクション

大会初日の締めを飾るエンディングアトラクションには、「創作芸団レキオス」が獅子舞や迫力ある創作エイサーの演舞を披露しました。演出の最後には、オーピングアトラクションを務めた「琉球芸能団うりずん」のメンバーと共演。参加者全員でカチャーシーを踊り、初日の幕を閉じました。

次期開催地は福島県

来年の開催地である福島県民児協の篠原清美会長は、福島県の紹介動画を放映した後、本大会の盛況を踏まえ、次期開催に向けた意気込みを述べました。

【第88回全国民生委員 児童委員大会】

期日：2019年
10月17日(木)～18日(金)
会場：ビッグパレット
ふくしま

大会2日目の中止

2日目は活動交流集会及びシンポジウムを行なう予定でしたが、台風24号の接近に伴い、開催中止となりました。

参加者からの声

県外の参加者から、「空港での出迎えや会場での見送り等のあたたかい歓迎に感激しました」等の声があり、大会初日を盛会のうちを終えることができました。

大会宣言

私たちの先達は100年以上の永きにわたり、地域に寄り添いながら、地域のよき隣人として活動を重ねてまいりました。

しかしその一方で、今日、わが国は急速に進行する少子高齢化や、ひとり暮らし世帯の増加、家族意識の変容などがすみ、地域社会では人びとのつながりが希薄化しており、地域住民は、孤立や孤独、介護や子育て等への不安など、多様な課題を抱えています。児童や高齢者、障がい者への虐待、社会的孤立を背景とした課題や悪質商法被害なども社会問題化しており、本年7月の豪雨災害や今月の北海道胆振東部地震など、水害や地震等の自然災害も各地で相次いでいます。また、犯罪被害や虐待により未来ある子どもたちが命を落とすような事件が後を絶たないことは、私たちの大きな悲しみでもあります。

このような状況のなか、人びとの生活の安全・安心をいかに守っていくのか、安全で安心な地域をどう創っていくのかが問われています。国では、さまざまな課題を抱える人を地域で支えるために、地域住民が支えあい、助けあう共生社会づくりをすすめるべく、生活困窮者自立支援法や社会福祉法の改正などが行なわれています。

本年は民生委員法制定70周年であるとともに、民生委員制度創設から101年めとして、あらたな100年に向けて歩みだす大切な年であります。私たち、全国23万人余の民生委員・児童委員は、これからも、常に地域住民の立場に立ち、相談・支援活動を展開し、誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりをすすめていくため、本日、ここ沖縄県において第87回全国民生委員児童委員大会を開催するにあたり、次のとおり宣言します。

- 一、支援を必要とするすべての人びとが孤立することのないよう、日々の見守りや相談活動を重ねるとともに、地域の幅広い関係者と連携し、住民主体による地域共生社会づくりに取り組めます
- 一、わが国の未来を担う子どもたちが健やかに育つことのできるよう、地域の子どもの育ちを守り、子育てを応援する地域づくりに取り組めます
- 一、東日本大震災や熊本地震、平成30年7月豪雨災害などの被災地の人びとや、そこで活動する民生委員・児童委員への支援を引き続き行なうとともに、災害に備えた地域づくりに取り組めます
- 一、基本的人権についての理解を深めるとともに、地域において人権啓発に関する活動に積極的に協力し、人権を尊重した地域づくりに取り組めます
- 一、広く社会に対し民生委員・児童委員制度の周知に取り組み、その一層の充実・発展に向けて取り組めます

平成30年9月27日 第87回 全国民生委員児童委員大会 (於 沖縄県)



平成
30
年度

赤い羽根共同募金運動スタート

運動期間

平成30年
10/1

平成31年
3/31



「赤い羽根」のシンボルで親しまれている共同募金は、寄付者、ボランティアをはじめ、多くの県民の皆さまに支えられ、全国では今年で72回目、本県では66回目を迎えました。

共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来るよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組み、役立てるための重要な資金です。

今年度は2億1千197万円の目標が掲げられ、運動が実施されます。本年も県民皆さまのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



「赤い羽根空の第一便」 伝達式を開催

10月1日、共同募金運動のスタートをPRするため、那覇市のパレットくもじ広場で「赤い羽根空の第一便伝達式」が行われました。

全国一斉に始まる共同募金運動の機運を盛り上げるため、全日本空輸(株)の客室乗務員から、厚生労働大臣と中央共同募金会会長から共同募金運動への激励と協力を求めるメッセージが



▲メッセージを受取る湧川会長(中央右)と新本会長(中央左)

主催者らへ伝達されました。

沖縄県共同募金会の湧川昌秀会長は「誰もが心豊かに安心して暮らしていくために、一人ひとりが地域福祉の担い手となり、主体的な活動を展開していくことが必要です」と述べ、県民の運動への協力を呼びかけました。

セレモニー終了後には、募金ボランティア等が街頭で募金活動を行い、道行く人々へ協力を呼びかけました。



▲街頭募金の様子

「赤い羽根空の美ら島便」

10月1日、宮古空港と南ぬ島石垣空港では、日本トランスオーシャン航空(株)のご協力により、客室乗務員から沖縄県子ども生活福祉部長メッセージと赤い羽根が届けられました。

共同募金委員会や募金ボランティアの皆さんが宮古・石垣両地区の共同募金運動開始をアピールしました。



▲宮古空港でのセレモニーの様子

～募金の種類と違いについて～

名称	一般募金(赤い羽根)	歳末たすけあい募金
募金期間	10月1日～3月31日(6ヵ月)	12月1日～12月31日(1ヵ月)
助成年度	今年度集めた募金を、配分委員会で助成先を決定し、来年度使う。	今年集めた募金を今年使う。
助成事業	①社会福祉協議会 ②社会福祉を目的とする団体・ボランティア団体・福祉施設に	新しい年を迎える時期に、支援を必要としている人々が安心して暮らす事ができるよう実施



平成30年度助成団体一覧

施設名	事業名	助成決定額
(特非)交流広場 ハッピーハウス	送迎用車両	1,000,000円
(福)久仙会	福祉車両	1,270,000円
(福)そてつの会	パン製造機等	1,000,000円
(福)しののめ福祉会	椅子・本棚等	510,000円
(福)たまん福祉会	印刷機器	1,000,000円
(福)トゥムヌイ 福祉会	コンロ等整備	720,000円

平成30年度中央競馬馬主社会福祉財団助成

5,500,000円決定

中央競馬馬主社会福祉財団助成金は、日本中央競馬会の馬主達が、自分たちの手で目に見える形で社会福祉の発展に貢献し、併せて競馬に対する社会の認識を高めることを目的として競馬の賞金の一部を自主的に拠出したものです。

今年度、県内では、社会福祉法人の小規模特別養護老人ホームなど6団体へ総額550万円の助成が決定しました。

これまで総額15億3987万5千円が県内の団体へ助成され、福祉車両等の購入や施設の建設、増改築及び各種修繕工事など社会福祉事業の基盤整備に役立てられています。

来年度の助成については、来年4月に募集する「民間福祉資金助成要望調書」で仮申請を受け付けますので、県共同募金会のホームページでお知らせします。

アサヒ飲料(株) より助成金贈呈

アサヒ飲料(株)では、「三ツ矢サイダー」・「カルピス」の売上の一部を、中央共同募金会を通じて全国の「子ども食堂」へ寄付する活動を行っており、本県でも8月29日に贈呈式が行われました。



▲贈呈式の様子

アサヒオリオン飲料(株)の関業務部長より、「子どもたちの健全な成長を支援するのに役立ててほしい」と、40万円が寄付されました。なお、寄付金は県共同募金会を通じて沖縄市と宮古島市の子ども食堂を運営する2団体へ配分されました。

平成30年7月豪雨災害に 災害等準備金535万 拠出しました!

共同募金会では、災害時に被災地でのボランティア活動を支援するために、皆さまから集めた赤い羽根共同募金の3%を限度に「災害等準備金」として毎年積み立てています。

平成30年7月豪雨災害では、最も被害の大きかった3県(岡山県・広島県・愛媛県)での災害ボランティアアセンターの運営支援として、沖縄県共同募金会から中央共同募金会へ535万円を拠出しました。全国では総額3億円が拠出されています。

共同募金会への寄付は、災害時における助け合いにもつながっています。



沖縄県共同募金会

☎098-882-4353

<http://www.okisyakyo.or.jp/kyoubo/>



平成30年北海道胆振東部地震災害義援金の募集について

本年9月6日、北海道胆振地方東部を震源とする地震により、道内において人的被害をはじめ、家屋の倒壊等甚大な被害が発生し、179市町村に災害救助法が適用されました。県共同募金会と各市町村社協において、被災者支援のため義援金の募集を行っています。義援金の受付期間は平成30年9月12日(水)～平成31年3月31日(日)まで。寄付の方法については、県共同募金会までお問い合わせください。

社会福祉施策の充実・予算の拡充を

県社会福祉施策・予算対策協議会 27項目の要請書を県知事へ提出

沖縄県社会福祉施策・予算対策協議会（以下「予対協」という）の代表団14名は、8月21日、県庁に謝花喜一郎副知事を訪ね、「平成31年度県福祉施策・予算に対する要請書」を提出しました。



▲(写真左から)湧川昌秀 県予対協会長、謝花喜一郎 副知事、平三男 県予対協副会長、豊村良春同副会長

手交式の冒頭、予対協の湧川昌秀会長は、「福祉課題は複雑・多様化しており、さらなる施策の充実と予算確保の必要性を痛感している」とあいさつし、謝花副知事へ全27項目の要請書を手渡しました。(写真)

今回の要請では、施策関連13件、予算関連1件の計14件の新規項目が盛り込まれました。

代表団から要請事項の説明を受けた謝花副知事は「県として提言を重く受け止める。翁長知事の遺志を引き継ぎ、やさしい社会の構築に向け、県としても精いっぱい取り組んでいきたい」とコメントしました。

なお、予対協では県内の全市町村長及び市町村議会議長に対して、文書にて要請書を提出しています。

県への新規要請事項

【施策関連】①県地域福祉支援計画の見直し及び市町村地域福祉計画策定の支援の強化について、②地域共生社会の実現に向けた取り組みの推進について、③教育委員会との連携強化による福祉人材確保の推進について、④福祉人材の確保に向

県子ども生活福祉部 施策説明会 予対協から政策提言、意見を交わす

7月下旬から8月上旬にかけて、県子ども生活福祉部による施策説明会が開かれ、予対協を構成する各部の代表が出席しました。

この説明会は、福祉関係団体に対し、県が取り組んでいる施策についての説明と意見交換を通じて、今後の県行政へ生かすことを目的に毎年開催されています。

7月25日に開催された県福祉政策課、県子ども未来政策課による説明会には、市町村社協連絡協議会、県民生委員児童委員協議会、

けた各種貸付事業の継続と拡充について、⑤「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」の実施について、⑥島しょ地域介護人材確保対策事業における対象職種の拡大について、⑦高齢者の日常生活を支える交通網の整備について、⑧老人クラブ活動等助成費の充実について、⑨福祉施設入所者のグループホーム等の施設整



▲施策説明会の様子 7月25日、県総合福祉センター

備に係る補助事業の基準整備について、⑩障害福祉サービスの従事者等に対する研修の充実について、⑪退所児童等アフターケア事業の実施について、⑫子育て支援員研修の拡充について、⑬就労継続支援B型事業における目標工賃達成加算の新設について

【予算関連】⑭休憩保育士支援事業の拡充について

県から民生委員・児童委員活動の活性化や子どもの貧困解消に向けた取り組みについて説明を受けた後、予対協の代表から、県地域福祉支援計画の見直しなどの政策提言を行いました。

意見交換では、民生委員が活動しやすい環境づくりのため、複雑なケースへの対応についてはあらゆる社会資源が連携して取り組む必要性などを確認しました。

この日を皮切りに老人障害、保育を所管する県子ども生活福祉部の課ごとに説明会が行われ、それぞれ活発な政策提言・意見交換が行われました。



公福祉法人の地域に おける公益的な取り組み について話し合う

北谷町内社会福祉法人連絡会及び沖縄市
社会福祉法人ネットワーク会議が開催

平成28年の社会福祉法の改正により、社会福祉法人の地域における公益的な取り組みが責務となりました。各法人において、地域の課題に向き合い、積極的に公益的な取り組みを行うことが期待されています。

そのような中、県内においても市町村内の社会福祉法人が一堂に会し、地域住民の抱えている福祉・生活課題について話し合い、情報共有を行う連絡会等が市町村社協の呼びかけで、開催され始めています。県社協では各市町村で実施される連絡会等に参加し、情報提供等の支援を行っています。

北谷町内社会福祉法人連絡会

8月9日、北谷町社協の会議室で北谷町内にある6つの社会福祉法人が集まり、連絡会が開催されました。

連絡会では、各法人が実践している公益的な取り組みについて報告が行われるとともに、北谷町社協に寄せられた相談の一事例として、乳児を抱えた世帯に対する乳児のフードドライブができないか等の提案があげられ、地域の課題

解決に向けた話し合いが行われました。

沖縄市社会福祉法人ネットワーク会議

9月20日、沖縄市農研研修センターにおいて、沖縄市内53ヶ所の社会福祉法人のうち30ヶ所の法人が出席し、ネットワーク会議が開催されました。

会議では、沖縄市役所から行政サービスでは対応が難しい制度の狭間にあるニーズの説明がなされました。また、沖縄市社協からは自治会ごとに設置している福祉連絡会への案内やフードバンク事業への協力などの情報提供があり、質疑応答を含めた意見交換が行われました。

北谷町、沖縄市ともに今後も市内・町内の社会福祉法人が協議する場を継続していくことを確認し、次に繋げていきます。

今後、地域における公益的な取り組みをテーマに種別を越えた社会福祉法人同士の関係づくりをはじめ、地域の課題を話し合う場にしていくことが期待されています。



▲沖縄市社会福祉法人ネットワーク会議の様子

平成30年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	新設 徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

保険期間1年

▶ 年額保険料(掛金)	
定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円

付見舞費用(B型)

基本補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】
定員1名あたり
入所: 1,300円
通所: 1,390円



スケールメリットを活かした
充実した補償と
割安な保険料
です。

- プラン2 施設利用者の補償
- プラン3 施設職員の補償
- プラン4 社会福祉法人役員等の補償

◆30年度新設 クレーム対応サポート補償(プラン1-①オプション4)

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763

(SJK17-17293 2018.1.12 作成)

サックス THANKS運動の ロゴマークが決定しました

～THANKS(サックス)運動ロゴマークデザインコンテスト審査結果～

T=ちいきの H=ひとびとが A=あかるい N=ネットワークを K=きずき S=ささえあうしゃかい

最優秀賞



糸永 泰子 さん

作者コメント

ハートとハートの間の「人」字状のラインは漢字の「人」を図案化したものです。ハートを人が結び、人がハートで繋がっている。ラインの虹色は希望の色、そして色々な想いを持つ人々が集まって支え合う、優しさのネットワークを表したものです。

特別賞



真栄平 愛斗 さん

作者コメント

みんな仲良くなるといいなと思ってかきました。
題名「ハートものがたり」

ロゴマークデザインコンテスト実施報告

今回のコンテストには、101作品が寄せられました。最年少6歳から最高齢67歳と幅広い年齢層や様々な業種の方々から応募がありました。最も多かったのは10代の学生からで、県内にある学校法人KBC学園インターナショナルデザインアカデミーの学生からたくさんの応募がありました。

平成30年8月28日に開催された「第2回THANKS(サックス)運動幹事会」での審査を経て、最優秀賞1点と特別賞1点が選出されました。

応募いただきました多くの皆様、誠にありがとうございました。

今後、THANKS(サックス)運動の取り組みを多くの皆様に知っていただけるよう、様々な事業等を推進します。また、本運動ホームページでは、地域の先駆的な取り組み事例などを紹介していますので、是非ご覧ください。

THANKS(サックス)運動事務局 (社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会 地域福祉部)

〒903-8603 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 電話：098-887-2000 FAX：098-887-2024

E-Mail：i-tiiki@okishakyo.or.jp HP：https://www.okishakyo.or.jp/korituzero/

THANKS 運動

検索

九州各地の地域福祉 実践をもとに研究協議

県内から
豊見城市協が
「権利擁護」を
テーマに発表

去った9月6～7日に福岡県において、九州社会福祉協議会連合会、他6団体の共催により「平成30年九州ブロック地域福祉研究会」が開催されました。九州各県から約450名（沖縄から33名参加）の社協関係者等が集い、「新たな協働による地域福祉のあり方」をメインテーマに、社協における地域福祉推進に向けた取り組みの研究・協議が行われました。

全体会では、地域共生社会の実現に向けた国の施策の動向を踏まえ、市町村での包括的な支援体制の整備

において、社会福祉協議会の果たすべき役割や取り組み課題などについて講演等が行われました。分科会では、「多機関連携・協働」をキーワードに、「市町村における包括的な支援体制構築」「社会福祉法人の公益的な取り組み」「権利擁護」「財源確保」「災害支援」の5つの分科会で、先進地の実践報告をもとに研究協議を行いました。



▲実践報告を行う豊見城市協金城昌範氏(右端)

その中で、「権利擁護」をテーマとした分科会では、本県から豊見城市協の金城昌範氏が発表し、日常生活自立支援事業や法人後見生活困窮など先駆的に取り組んできた協働の実践事例をもとに、権利擁護体制の構築に向けた今後の課題等について報告を行いました。社協の強みを生かした権利擁護体制の構築に向けて、多機関との連携協働の重要性とともに、社協組織内の横断的な相談支援体制強化の必要性を改めて確認し、分科会を締めました。

社会的孤立対策モデル事業 南風原町神里地区 の取り組み

沖縄県社協では、平成28年度から「社会的孤立対策モデル事業」の助成先として南風原町社協（以下、「町社協」という）を指定しています。

南風原町内の中でも、神里地区は、地域づくりを推進していくための「地域づくり推進委員会」（以下、「推進委員会」という）が組織され、町社協から地域福祉活動のモデル指定を受けています。同地区は、人口840名、約320世帯あり、自治会加入率が98%と非常に高いことが特徴です。

同地区の推進委員会メンバーの福祉協力員（※）が、「平成29年度全国校区・小地域福祉活動サミット」に参加したことをきっかけに、地域福祉を意識した活動を始め、高齢者の居場所づくりを中心に、子どもたちと交流できる3世代交流を計画・実施しています。

高齢者の居場所づくり「ゆんたく広場」では、神里構造改善センターで週2回のカラオケ活動を行うと

ともに、夏休みにはそうめん流しやクラフトボールづくり・グランドゴルフ等3世代の交流を行いました。また、見守り活動として、

気になる世帯等を把握するための福祉マップ作りに取り組み、住民の地域福祉への意識向上を図っています。同推進委員会の会長である神里区長の赤嶺一男さんは、「地域福祉の意識を高められる活動にしていきたい」と抱負を述べ、同地区書記の新垣朋子さんは、「自分の子ども頃の住民同士が支え合っていた経験を、

今の子ども達にも経験させたい」と想いを話しました。また、神里地区で民生委員活動に協力している福祉協力員の赤嶺一子さんは、「メンバーを増やして、活動やコミュニケーションを広げていきたい」と推進委員会への期待を述べました。

※福祉協力員＝民生委員に協力するため、町社協が委嘱



▲3世代交流の様子

沖縄県福祉サービス運営適正化委員会 ～福祉サービスの苦情解決をお手伝いします～

▶福祉施設や事業所、または在宅での福祉サービスに関してお困りごとはありませんか。福祉サービスの苦情解決をお手伝いします。福祉サービス運営適正化委員会とは…

本委員会では、福祉サービス利用者（またはご家族等）と事業所との間に起きた苦情・トラブルを話し合いによって解決が図られるよう相談・助言・調整を行います。

沖縄県福祉サービス運営適正化委員会
TEL：098-882-5704
FAX：098-882-5714



沖縄ねんりんピック記念大会 かりゆし美術展 ワークショップ開催のご案内

開催場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室【日本画、洋画、彫刻、工芸】
// 県民ギャラリースタジオ【写真】

開催部門：日本画、洋画、彫刻、工芸、写真の5部門

開催日：平成30年12月2日（日）【工芸 9:30～11:30 / 写真 14:00～16:00】

平成30年12月8日（土）【彫刻 10:00～12:00】

平成30年12月9日（日）【日本画 10:00～12:00 / 洋画 14:30～16:30】

講師：かりゆし美術展審査員他

受講定員：10名～30名まで※各講座による（下記参照）

参加対象者：県内在住で概ね60歳以上の方を対象とする。

申込方法：電話申し込み 申込連絡先：098-887-1344（美術展係）

事務局：沖縄県社会福祉協議会 いきいき長寿センター（那覇市首里石嶺町4-373-1）

支払方法：原則事前支払いとする（材料購入等の為）。※上記事務局にて現金での支払いとする。

申込期間：平成30年10月15日（月）～11月16日（金）9:00～17:00 ※土日は除く

※定員に達し次第締め切りとする。

受講料：1,000円（工芸部門のみ別途材料費有）

◆【日本画】

タイトル：「日本画材を体験しよう！」

内容：なかなか触れることのない日本画材を用い、膠（にかわ）と絵具を練り合わせたり、箔（はく）を使った表現等を絵ハガキサイズで体験する。

受講定員：30名まで 持参するもの：特になし 講師：喜屋武千恵氏

◆【洋画】

タイトル：「人物を描こう！」

内容：コンテ（鉛筆と木炭の中間の柔らかさで、濃淡も容易に出せるクレパスの一種）などを用いて、木炭紙サイズ[50cm×65cm]のクロッキー用紙にモデルを手早く描く（1人5枚程度）。

受講定員：20名まで 持参するもの：特になし 講師：田中睦治氏

◆【彫刻】

タイトル：「粘土で作品を作ろう！」

内容：石塑（せきそ）粘土と芯材、ヘラ等を使って、人物顔、全身像、動物、鳥等の作りたい物をモデリングする。ただし、着色等は自宅に持ち帰り乾燥させてから行うこととする。

受講定員：20名まで 持参するもの：特になし 講師：西村貞雄氏

◆【工芸】

タイトル：「漆のオリジナル沈金プレートを作成しよう！」

内容：漆塗りのプレートに「沈金（ちんきん）」という漆芸技法で模様付けを行い、オリジナルのプレート作りを体験する。

受講定員：15名まで 材料費：1,500円 講師：前田貴子氏

持参するもの：制作したいデザイン図案（ハガキサイズの用紙）。長袖シャツ（漆かぶれ防止の為）。

◆【写真】

タイトル：「ホワイトバランスを体験しよう！」

内容：カメラのホワイトバランス ISO 感度モードの説明に加え、モチーフ及び試験紙を2種類のライティングで撮影後、2L版でプリントする。最後は問題集にチャレンジする。

受講定員：15名まで ※概ね初心者を対象とする。

持参するもの：デジタルカメラ ※スマホ、フィルムカメラは不可 講師：島元智氏



第10回沖縄ねんりんピック記念大会開催!

沖縄県内の高齢者スポーツ・文化の祭典「第10回沖縄ねんりんピック記念大会」(主催:沖縄県、沖縄県社会福祉協議会)の総合開会式を、9月22日に県立武道館にて開催しました。

「沖縄ねんりんピック」は、高齢者の生きがいと健康づくりを進め、明るい長寿社会づくりを促進することを目的に開催しており、今年で10回目を迎えました。

総合開会式の選手宣誓では、還暦軟式野球競技の浦崎猛さんとラージボール卓球競技の長浜直子さんが「高齢者の生きがいと健康づくりを県民に広くアピールしたい」と力強く宣誓しました。



選手宣誓をする浦崎さん(左)と長浜さん(右)



▲マラソン競技の様子

競技は6月から10月にかけて、グラウンド・ゴルフ、軟式野球など全19競技、約3000名の選手により熱戦が展開されました。最高齢選手は、女性がグラウンド・ゴルフ競技出場の上原マツさん95歳、男性はペタンク競技出場の照屋健心さん92歳。

上位入賞者(チーム)は来年和歌山県で開催される「第32回全国健康福祉祭和歌山大会」(ねんりんピック紀の国わかやま2019)への派遣選考の対象となります。

また、10周年特別企画として、より一層高齢者の健康づくりを推進する目的で、9月22日に「ねんりん健康ブース」を沖縄県立武道館

沖縄県かりゆし長寿大学校23期〜28期 ボランティア・地域活動交流会

沖縄県社協・いきいき長寿センターでは、かりゆし長寿大学の卒業生及び在校生を対象に、相互の交流やボランティア・地域活動等への参加促進を図ることを目的に、各市町村社協との共催のもと活動交流会を開催しています。

那覇市交流会 (小禄・金城・宇栄原地区)

8月3日、那覇市鏡水ふれあい会館にて、那覇市交流会が開かれ、小禄近郊に在住の14名が参加し、地域で活躍中のボランティア団体(3団体)の活動状況や事例等が紹介されました。地区ごとのグループに分かれて、自ら出来る活動について話し合いを行い、地域活動を始める切っ掛けづくりとなりました。



▲活動紹介に耳を傾ける

糸満市交流会

8月13日、糸満市社会福祉センターにて、糸満市交流会が開かれ、糸満市に在住の23名が参加し、糸満市のボランティアや民生委員児童委員協議会の活動状況等が紹介されました。そのうち、糸満市の「ボランティア応援センターふらっと」でボランティア活動を行っている本校卒業生(24期)喜多通夫さんの活動内容も紹介されました。参加者からは、「地域活動やボランティア活動を実践する必要性を改めて感じた」「私にも出来る小さなことから始めたい」等の声があがりました。



▲ワークショップの様子

地区別保育所職員研修会開催

沖縄県保育協議会では、県内3か所で研修会を実施し、保育所職員1,100名余りが参加しました。

今年度は、保育実践において必要な保健・衛生等に関する知識・技術の習得を目的とし、講義Ⅰに「子ども

の視覚と身体機能の発達」、講義Ⅱに「食物アレルギーをもつ子どもへの対応」の二部構成で開催しました。

講義Ⅰでは、講師の大城弘子氏（沖縄女子短期大学非常勤講師）から、「本が上手に読めない、球技が苦手、人との距離感が取れない」等の生活・運動面での支障は、これまで「やる気・集中力がない」「しつけの問題」等、個人や家庭の問題と思われていたが、視覚機能の未発達に起因していることもあるとの説明がなされました。

また、からだの発達と学

「原子反射」が抑制されず幼児期頃まで残ると、見方・思考の幼稚性や視覚機能の不安定さ等、体のコント

ロールや、思考で様々な影響が生じるとの報告がありました。

講義Ⅱでは、講師の野原正子氏（栄養士「離島地区担当」）及び大田なつき氏（管理栄養士「本島地区担当」）から、食物アレルギーの基本的な知識や対応献立の考え方、保育所職員間の連携と保護者支援のあり方について説明がなされました。

保育所での対応として、普通食とアレルギー食で形状や食器を変える等の誤配防止策が紹介され、ヒヤリハット事例の分析・検証の実施や職員間の情報共有が事故を回避するために重要であると話されました。

また、保護者との信頼関係を日頃から築き、栄養素の補い方の情報提供や医療機関の診断・食事指導に繋

げる等、日常的な支援を全職員が連携しながら進めていくことが必要だと話され、美味しい食事で前向きな気持ちになるよう心掛けようと講義を締めくくりました。



▲研修会の様子 講義Ⅰ 大城弘子氏

沖縄県知的障害児者施設長等研修会 in 石垣島開催

沖縄県心身障害児者施設協議会（以下、「県心身協」という）では、8月27～28日の2日間にわたり、石垣市で、「平成30年度沖縄県知的障害児者施設長等研修会 in 石垣島」を開催し障害児者施設の施設長等、34名が参加しました。

本研修会は平成30年度の報酬改定の算定構造や施策

の方向性を理解するとともに、社会福祉法人が地域の福祉拠点として取り組むことを考える機会とすることを目的に開催しました。

1日目は、石垣市内にある障害福祉サービス事業所「あるまねつと合同会社」と障害者支援施設「社会福祉法人若夏会」と学園の2法人の施設へ視察に伺いました。「あるまねつと」では、タッチセラピー（※）を通した訓練や雑貨製作が行われています。また、「若夏会」では、肉用牛の生産・セリ販売、鶏卵生産販売等の生産活動が行われており、両施設を視察した参加者からは「事業に取り組む姿勢や意思決定の仕方が勉強になりました」等の感想が寄せられました。

2日目の午前中は、熊本県にある社会福祉法人菊愛会理事長の最上太一郎氏を講師に迎え、自法人の実践報告を交えながら、平成30年度報酬改定の主な内容や新たに創設されたサービス等について講義が行われました。

午後からは、最上氏と県

心身協の伊佐智樹会長、知念隆生副会長の進行による座談会方式で次回報酬改定を見据えた障害児者支援施設のあり方について、意見交換が行われました。座談会の中で、最上氏から「今回の報酬改定で障害者の地域移行の推進等が求められる中で、地域生活定着支援センターや司法機関等との充分な調整のもと刑務所等矯正施設退所者への支援を進めることが必要」との話がありました。

参加者からは「制度を熟知し、新たに創設された事業の活用を検討していく必要性を感じた」等の意見が寄せられました。

※スキンケア等を通して肌に触れ心や身体の健康を促す美容健康法



▲研修会(座談会)の様子



ご利用下さい!

おきなわ福祉研修支援サイト

講師バンク

講師バンクは、福祉従事者のスキルアップやキャリア形成を目的とした福祉研修を実施する際の講師選定の一助となるものです。福祉の各分野で活躍する人材を講師登録し、情報をホームページ上で紹介することで、研修機会を増やし内容の充実を図ります。



情報ナビ

県内で実施されている各種の福祉研修を検索することができます。

福祉研修実施機関・団体さまへ

県内の福祉施設・事業所を対象に継続的に研修を実施している機関・団体が研修情報を掲載することができます。

是非ご登録下さい。 詳しくは、当サイトまで。

ガイドライン

『沖縄県の福祉・介護分野における人材育成ガイドライン』を用いて研修企画・実施方法を紹介しています。また、ガイドラインを活用したセミナーを開催しています。



▲ガイドライン活用セミナーの様子

本サイトに関するお問い合わせ先

沖縄県社会福祉協議会 福祉人材研修センター (サイト担当者)

おきなわ福祉研修支援サイト

TEL : 098-882-5703 FAX : 098-887-1071

<http://www.okishakyo.or.jp/kensyuu/>

沖縄県社会福祉協議会ホームページ内

[おきなわ福祉研修支援サイト](#) をクリック

募集中 生活支援員になりませんか

(日常生活自立支援事業)

高齢者や障害のある方で自分で判断することが困難な方々の市役所や銀行での手続きや支払いのお手伝いをいたします。

お仕事の主な内容

具体的な活動は以下のようなものです。

- ・公共料金や病院代の支払いを本人と一緒に(または、代わりに)に行う。
- ・役所や郵便局などで行う手続きの説明や、本人が行う手続きに付き添う。
- ・本人とのコミュニケーションを通じて、相談や要望を聞く。
- ・相談、要望に応じて、本人が自身で判断できるようなアドバイス・情報提供をする。

- 月数回から。
- 毎回1時間～2時間程度のお手伝いです。
- 社会福祉協議会の職員が活動のサポートをします。
- 資格等は特に必要ありません。



※お住いの市町村社協にご相談ください。



福祉の職場説明・面接会 Discover fukushi 2018

11月20日(火) 13:00~17:00 会場: 沖縄空手会館

発見1



県内最大!77の福祉の施設・事業所が集まるLIFEブース!

「生まれてから死ぬまで」
人の人生に伴走する県内社会福祉施設・事業所が一同に集まります。
当たり前ですが、高齢の方にも子どもの頃があり、子どもはいつか大人になる。
福祉がどのようにつながり、誰がどの点に関わっているのか?
広い視野で福祉を発見する機会になります。
当日はライフステージに沿った様々な社会福祉施設・事業所の取り組みと出会って下さい。

出展施設・事務所一覧は
こちらから確認

発見2

体験付!福祉の世界が広がるセミナー2本

セミナーは席が限られているため要予約です。同時に福祉人材センターの求職登録もお願いしています。
予約メール:jinzai@okishakyo.or.jp(名前、所属を明記しメール送付をお願いします。)



就職応援セミナー① 14:30-15:30

介護分野への就職希望者向け 「VR体験付!福祉×テクノロジー×旅行による 新しいケアコミュニケーション」

講師: 登嶋健太氏(東京大学 先端科学技術研究センター職員)
デイサービスのリハビリを盛り上げるために活用した旅行映像。
よりリアルに楽しんでもらうためにケアの現場にVRの導入を実現しました。

先端技術×福祉の
分野で、ケアの現場
から大学職員となっ
ての登嶋さん。

若手福祉人だから
こそできる福祉のカ
タチのヒントを伝え
ていただきます。



就職応援セミナー② 15:00-16:30

保育・障がい分野への就職希望者向け 「疑似体験付!保護者に伝える力を育む、 多様な子どもたちの世界を体験」

講師: 重光喬之氏(特定非営利活動法人両育わーど理事)
障がい児との関りをキッカケに、子どもも大人も共に学ぶ「両育」
を提唱。

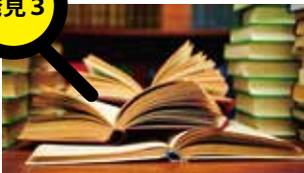
子どもと関わる人を増やし、子ども達の育成支援をサポートしている
重光さん。

今回は可愛いデザイン
が目を引くTHINK BOXを
使った疑似体験も実施。

多様な子ども・おとな
に想いを馳せるキッカケ
を提供していただきます。



発見3



1日限りの「人間図書館」が開館!

ヒューマンライブラリーとは、その名の通り生きている人間を「本」に見立て、図書館で本を読むように、「本」の語りを聞き、対話することによって理解を深める試みです。今回は1回30分間、本を借りることが可能です。今回は脳性麻痺、聴覚障害、ゲイ、認知症、ダウン症の親とカテゴライズされる「本」の方々にご協力いただきます。メディアやテキストの情報ではない、目の前の声を感じてもらい、誰と向き合う福祉に取り組みたいのか?を考える機会に出来たらと思います。本がタイトルで分からないように、人も肩書では分からない。

お問い合わせは
沖縄県介護実習・普及センター
住所 那覇市首里石嶺町4-373-1
TEL: 098-882-1144
TEL: 098-882-1148
FAX: 098-882-1148



【展示している福祉用具の
販売・レンタルは行ってい
ません。取り扱い事業所を
ご紹介しています。】

沖縄県総合福祉センター
内に設置されている福祉用
具展示場には、電動ベッ
トや車いす・歩行器・入浴
や排泄用品等の福祉用具を、
約200点余り展示してい
ます。見て・触れて・触って・
体験できますので、どうぞ
足をお運び下さい。
開館時間 9時~17時
(土・日・祝日・年末年始休)

沖縄県介護実習・
普及センター
介護・福祉用具の疑問に
お答えします

「沖縄県の福祉・介護分野における人材育成ガイドライン」を活用した「人材育成の推進を図る」取り組みについて

沖縄県社協・福祉人材研修センターでは、県内の各福祉施設・事業所における人材育成の取り組みの推進を図ることを目的に、平成27年度に策定した「沖縄県の福祉・介護分野における人材育成ガイドライン」(以下・ガイドライン)を活用したセミナーを開催しています。

(学校法人大庭学園ソーシャルワーク専門学校校長)から、「6ヶ月の壁」や「3年の壁」といわれる、職員が離職しやすい時期をふまえた、職員の力を引き出すティーチングやコーチングなどの効果的な育成手法等について説明がなされました。

受講者アンケートからは「理想的な上司・チームリーダー・新人職員について職員間で意見を出し合うことで、その意見が『求める人材像』へとつながり、『研修計画』や『人材育成施策』にもつながっていくということが学べた」といった声が寄せられました。

第2回目・3回目の本セミナーにおいても、ガイドラインを活用し、「ここでずっと働きたい」と思える施設・事業所づくりの推進を図っていきます。

「ガイドライン」の活用に向けて

本セミナーは全3回による連続プログラムとなっており、講義による「学び」や演習による「気づき」をもとに、受講者自身が所属する施設・事業所における人材育成計画を「描き」、実践へつなげていくことを目指しています。

去った9月19日に第1回のセミナーを実施し、メイン講師の諸見里安知氏

ガイドラインの紹介

【標準研修シラバス(手引書)】

OFF-JT(日常の業務を離れて行う研修)を企画する際に活用できる手引書(高齢・障害・児童の3種類)



【ガイドライン】

福祉従事者が「ここでずっと働きたい」と思える施設・事業所づくりに必要な人材育成の考え方や具体的な人材育成体制の指針を記載



【ワークシート集】

ガイドラインに記載されている人材育成体制を整備する際に活用できる様式集



おきなわ福祉研修支援サイト

検索

ガイドラインの詳しい内容やダウンロード(無料)は上記ホームページへ

沖縄県介護実習・普及センターのこれから開催される介護講座のご案内

一般県民・介護従事者向け

テーマ別
介護講座(後期)

知っておくと役に立つ介護に関する基礎知識や新しい介護技術、高齢者の身体的疑似体験を学べるテーマ別介護講座です。

- ④ 11/14 (水) はじめての介護保険制度
- ⑤ 11/21 (水) 高齢者疑似体験「うらしま太郎」

- ⑥ 11/28 (水) 認知症を学ぼう!

時間:13時半~16時半
料金:200円(1講座)
会場:沖縄県総合福祉センター(那覇市首里石嶺町4-1-373-1)

定員:16~20名程度

※1講座のみの受講も可



▲高齢者疑似体験「うらしま太郎」の様子

一般県民向け

はじめての
介護講座(後期)

① 12/5 (水) らくらく立ち上がり編

② 12/12 (水) らくらく起き上がり編

③ 12/19 (水) 正しく使おう!車いす編

時間:13時半~16時半
料金:600円(全3講座分)
会場:沖縄県総合福祉センター(那覇市首里石嶺町4-1-373-1)

定員:16名程度

※3回全て受講できる方対象



▲はじめての介護講座(前期)の様子



ご不明な点は
こちらまで

沖縄県介護実習・普及センター
TEL:098188211484
FAX:098188211486

付・寄贈者芳名
(8月1日～9月30日)

御寄付・御寄贈いただき、誠にありがとうございました。

- 鎌田 佐多子 様
- (故)鎌田隆 様(香典返し)

- 一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会 様

- 沖縄タオル工業株式会社 様

- 合資会社沖縄実業 様

- 福山グループ 様

社会福祉ライブラリーから 本の紹介

年をとるほど賢くなる脳の習慣



著者：バーバラ・ストローチ
出版社：日本実業出版社

この本は、年齢を重ねるほど、物事を概念化して捉えることが上手になる、ストレスを上手く処理できるようになる、幸福感やポジティブな感情を抱きやすくなるなど、研究成果に裏付けられた様々な真実を明らかにしています。また、より健康な脳をつくり、長持ちさせる習慣についても解説しています。加齢に対してポジティブに捉えることの出来る一冊となっています。



▲鎌田佐多子様(8.7)
【写真左】鎌田 佐多子 様
【写真右】本会 会長 湧川 昌秀



▲一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会様(8.15)
【写真左から2番目】
沖縄県ハイヤー・タクシー協会 専務理事 田中 建治 様
【写真左から1番目】
同協会 事務局長 津波古 修 様
【写真右から2番目】本会 常務理事 嘉陽 孝治
【写真右から1番目】本会 事務局長 高良 正樹



▲沖縄県タオル工業株式会社様(9.3)
【写真左】
沖縄県タオル工業株式会社 代表取締役社長 東風平 朝秀 様
【写真右】本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲合資会社沖縄実業様(9.11)
【写真左から2番目】
合資会社沖縄実業 営業二部部長 宮里 研作 様
【写真左から1番目】
同社 総務部長 国場 隆 様
【写真右から2番目】県子ども生活福祉部長 大城 玲子 様
【写真右から1番目】本会 会長 湧川 昌秀



▲福山グループ様(9.20)
【写真左から2番目】
福山商事株式会社 取締役 久場 康永 様
【写真左から1番目】
同社 紙業部二課 課長 上里 安徽 様
【写真右から2番目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1番目】本会 常務理事 嘉陽 孝治

※本会の寄付については
税制上の優遇措置が受け
られます。詳しくは県社
協総務企画部まで

編集後記

表紙の作品の作者(親富祖さん)からいただいた「今の(人生の)ステーションを楽しんでね」という言葉に、とてもパワーをもらいました。



浦添市在住の親富祖勝枝さん(66歳)が、写真を本格的に始めたのは5年前。旅行が好きで、各地で撮影した写真を動画編集するようになり、編集技術を学ぶために通った教室の先生から、本格的に写真を始めると勧められたのがきっかけ。「凝り性」という親富祖さんは、教室だけでなく、動画や本でも写真の技術等を勉強し、夜中まで夢中になることもあるという。

表紙の写真は、南城市の奥武島で夏に見られる光景を収めたもので、漁村特有の生活の様子を映している。「写真は光が大切」という親富祖さんならではの、オレンジに染まった夕映えの空が、優しく、どこか懐かしくも感じられる一枚である。

「写真が生活の半分を占めている。とても楽しいの」と話す親富祖さんの笑顔は、写真の夕日のように美しく輝いていた。

表紙の作品



作品名:「夏の風物詩」
作成者 親富祖 勝枝 さん